

## 2017年度事業計画

学校法人 東洋英和女学院

当学院は、キリスト教（プロテスタント）の信仰と聖書の教えに基づいて、建学の精神である「敬神奉仕」に沿った人間形成を重んじる学校教育を行っています。

創立133年目を迎える今年も、創設者マーサ・J・カートメル宣教師をはじめとする諸先達に倣い、信仰、希望、愛をもって日々の教育活動に取り組み、幼稚園から大学に至る総合学園としての一貫教育の充実を図りつつ、私どもへのご期待に応えるべく努力を続けてまいります。

2017年度の各部ごとの事業計画は以下のとおりです。

### 1. 各部の教学計画

#### (大学・大学院)

##### 《大学》

建学理念である「敬神奉仕」の具現化・内実化に向けて、新たな英和式リベラルアーツ教育の核となる「英和スピリッツ」カリキュラム(以下ESC)を具体的な授業科目レベルに落とし込むことで設計を完成させる。ESCは、本学の三つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)との整合を図りつつ、部分的に2017年度入学生からの運用を目指す。2019年度以降のESC本格的導入に向けて、既存のPBL(Project Based Learning)その他のAL(Active Learning)教育プログラムの実績評価を進め、カリキュラム改定に向けた検討と研究を推進する。新カリキュラムの構築は収容定員見直しや学科統合など大学の構造改革への動きと連動させる。

2017年度後期より「村岡花子記念講座」を女性学・英和学(自校史)相当の半期科目として開講し、一部を港区連携事業の形で公開する。さらに「村岡花子記念給費奨学生」制度を導入し、奨学生として採用した人間科学科所属の新入生2名に対する全学的支援の態勢を整備する。ESCを念頭に2016年度から開始した「ラーニング・コモンズ」の設置に向けた調査と検討を引き続き推進し、学生の主体的な学びや自己啓発力の涵養に資することを旨とする。

周年事業とりわけ生涯学習センター開設20周年事業として、六本木校地において近隣大使館との協力の下に国際文化交流啓発のための連続セミナーを企画・実施する。また設立25周年を2018年度に控えた大学同窓会「楓美会」との緊密な連携を図り、その記念総会の開催を支援する。その他、地域連携、高大連携、産学連携、大学間連携などの連携事業の推進を積極化

させる。

これら一連の事業計画を円滑に履行するため、2016年度に設置された総合企画会議および総合企画課を軸として、学内の各種委員会を再編し、より機動性と実効性の高い組織を構築する。併せて、予想される文部科学省の各種審査・検査に堪える教員研究業績の検証・督励などを含め、大学基準協会の認証評価において指摘された問題点の改善作業を加速させる。

#### 《大学院》

人間科学研究科では、修士課程・博士後期課程とも各領域で新カリキュラムをスタートさせる。とりわけ臨床心理学領域では、国家資格「公認心理師」受験資格課程を構築し、現行課程との整合を図る。国際協力研究科においては、2019年度の導入を目途として新たなカリキュラム編成に向けた作業に着手する。いずれの研究科においても、大学基準協会の認証評価で指摘された問題点の解消・改善に向けた具体的な取り組みを課題とする。臨床心理学領域、幼児教育コース、国際協力研究科は文部科学省から認定された職業実践力育成プログラム（BP）の実践に努め、高度専門職社会人の育成に資する。これら各研究科の内実のさらなる向上のための努力に加えて、大学院全体として、港区との連携事業の積極的な推進を含め、対外発信と地域貢献のいっそうの充実を図る。

#### （中学部・高等部）

建学の精神である「敬神奉仕」を人間教育の基盤として継承していくことを改めて認識し、中高6年間を通じての「敬神奉仕の実践者」の育成を最終的な教育目標と再確認しつつ教育活動に取り組む。

東洋英和における教育の根底となるキリスト教による人間教育について、毎日の朝の礼拝や聖書の授業、また中1オリエンテーション、中2夏期学校、高一カンファレンス、高二修学旅行、高三修養会などの諸行事を通して実践していく。特に中1では30年来続くディアコニア活動を継続し、英和生のはじまりとして奉仕の実際の学びを行う。さらに他の学年やクラブ活動でもボランティアを積極的に取り入れる。このような奉仕の具体的な実践によって「敬神奉仕」の心の育成と共に実践力のあるものへと導く。さらに、人と人との直接的な関わりから得られる人間性の涵養を大切にする見地から、クラブ活動の必修性や手作りの行事の伝統を保持し、生徒の心身の健全な成長を促す。

こうした人間教育の基盤の上に教科教育、国際理解教育、感性教育を実施する。

教科教育では、従来の知識技能習得による「基礎力」の育成を大切にしつつ、「思考力（判断力）」「探究力（研究力）」「表現力（発信力）」「対話力（調整力）」の育成を各教科にてスパイラル的に積み上げていく。そのための技

法として、生徒主体の学習形態やICT活用、進路指導によるモチベーション喚起、評価などを用いる。また、これらの取り組みに向けて各教科で教科指導目標を改めて設定し、授業指導方法や教材設定などを研究していく。その一環として、昨年度に続き校内研修会にて研究授業を実施し、互いに授業実践を公開し、協働的な学びにつながる工夫を議論しあうなど、教員研修の充実を図る。さらに教員が外部の研修会研究会に出席できるような業務形態の検討や、教員のみならず一般職員が共に教育を作り上げ、教職員全員が生徒のために注力できるような風土と環境を整えたい。

国際理解教育として、SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）アソシエイト校としてのプログラムである「ミャンマーについての学び」（TEAM）や海外校や海外団体との交流を通して、多様な民族文化を理解し合い伝え合う力を養い、「敬神奉仕の実践者」としてのグローバルリーダーの育成を図る。東洋英和女学院大学との連携も継続して深めていきたい。また、カナダおよびアメリカにおける語学研修や短期留学制度・認定留学制度も、生徒の安全性確保に十分留意しながら継続していく。

感性教育は、中高部の大きな特色の一つであるとの認識のもと、音楽・美術を中心とした芸術教育をより充実させ、様々な鑑賞・発表の場を通じ豊かな感性を育て、生涯に渡り芸術に親しむ土台を築きたい。加えて、ピアノ科はじめ日本舞踊、華道、器楽、オルガンなど課外教室の一層の充実も図る。

## （小学部）

「敬神奉仕」の精神に基づく学院全体による人間形成のうち、その礎を築く大切な期間を担う小学部では、今年度も一人ひとりの「タラントを育てる」ことを目指す。タラントは、神から委ねられた各自の使命のために与えられているからである。

具体的には、児童それぞれのタラントが活かされることに加え、学び合う中で友だちのタラントをも大切に育てる教育内容を目指していく。そのための手段の一つとして、「小学部ならではの」ICTを活用した教育の研究を今年度も引き続き進める。

さらに伝統的に特色ある英語教育、回を重ねますます意義を深めている姉妹校の梨花女子大学附属初等学校との交流を含む国際教育の推進を図る。また児童それぞれのタラントが存分に活かされる運動会、学芸会、コンサート、夏期学校、修学旅行など年間の様々な行事をさらに充実させ、子どもたちの生き生きとした取り組みを全力で支える。

またより広く社会に目を向ける機会を提供し、児童たちが自らのタラントを用いて、隣り人のために、より良い未来のために活動できる場を増やしていく。

同時に今年度も、未来の小学部の教育を創り上げるための長期将来計画を、協力して進めていく。

### (東洋英和幼稚園)

「敬神奉仕」の精神を具現化するため、保育者は神から愛されていることを感謝して保育にあたり、愛をもって園児や保護者に向き合う。周囲の人々や神から愛されていることの実感を園児が持てるように関わる。

創立100周年を記念して開始した男女共学での3年保育は3年目を迎えるが、行事のもち方、各年齢の発達段階を踏まえた保育内容の検討を通じて、3年保育としてのカリキュラムの充実を図っていく。

熊本地震で被災した幼稚園や保育園、アジアキリスト教教育基金を通じバングラデシュの子どもたちや寺子屋学校への支援を継続していく。

本園の保育の柱である礼拝と遊びに関する園内研修を継続し、保育の質の向上に努める。

### (大学付属かえで幼稚園)

地域の中の幼児教育・保育の場、子育て支援の場、そして保育者養成の場として、キリスト教に根ざした保育に努める。礼拝を大切に守り、遊びの中での子どもの自発性・創造性・関わり・体験を支える。

少子化・母親の就業等による園児数減少という現実をとらえつつ、守り継承すべきことと変えていくべきことを明確化するため、学院・大学と連携して『東洋英和の保育を考える会』が2017年1月より活動を開始した。まずは、「どのような立ち位置で何を目指すのか」という軸を明らかにした上で協議を進めていく。

本園では「家庭を中心にした子育てをし、幼稚園に通わせたい」と願う保護者と共に子どもを育む方針を堅持し、本園の建学の精神・特色・願いをよりわかりやすく知らしめるための広報に力を注ぐ。また大学付属園として、大学の教育との融合と大学教員との協力体制を一層深める。また、教育実習等を通して、希望と使命感をもつ保育者の養成に携わっていく。

## 2. 各部の環境整備計画

### (大学)

昨年見送った大教室の天井補強工事を8号館8101教室、5号館5201教室から実施する。一部に残る学生トイレの和式便器を一掃し、アメニティ向上と節水を図る。建物廊下など共用部の照明をLED化する。老朽化の著しい5号館中小教室の空調機を更新する。これらの耐震化・省エネ対策は可能な限り補助金の利用を図る。教室のAL（アクティブラーニング）教育プログラム対応化を検討し実施する。学生の要望を聞きながら、可能な範囲で構内美化を推進する。

### (中学部・高等部)

昨年度より本格導入している新教務システムを拡張し、学校運営システムとしてより充実を図る。学籍・成績・入試・進学などの教務的な処理に加え事務会計などもシステム化して業務の効率化を目指し、生徒指導により時間を掛けられるよう体制を整える。

I C T教育を進めるために、教員へタブレット端末を1台ずつ配布して授業などで活用し、生徒用のタブレットも倍増する。また、校内でもW i - F i環境を整えてH R (ホームルーム)や特別教室でもI C Tを用いた授業へのサポートを拡充する。これらI C T環境推進にあたっては、今後の情報教育の進め方を十分に検討しながら、より教育効果の高い形での整備を進める。同様の観点からL L教室とコンピュータ教室の改修の検討も開始する。特にL L教室は旧態の教室であり、現在のI C T機器の発展や授業形態を十分に生かした教室への改修の検討を開始している。また、設置後20年となる大講堂のパイプオルガンのオーバーホール、東棟煙突内アスベスト密閉工事なども検討する。

校外施設の野尻キャンプサイトは中高部の教育の場として非常に重要であるとの認識のもとで、斜面法面の改良工事や高木の伐採をはじめ、従来同様必要な整備を着実に実施する。

### (小学部)

I C T教育の充実のために昨年度全教室に設置した電子黒板に加え、今年度は1クラス児童分のタブレットを導入する。また継続してI C T環境の整備に努める。

ホームページの充実、新しい学校案内パンフレットと学校紹介D V D制作等、きめ細かい情報提供による小学部教育の外部への発信に努める。

経年劣化による不具合が生じていた食洗機の交換、安全で美味しい料理を提供するためのブラストチラー(急速冷却機)の厨房への導入により、小学部給食のより一層の充実を目指す。

校舎外壁の補修、塗装工事をし、美しい教育環境の提供を目指す。

### (東洋英和幼稚園)

おもに年少児の屋外の活動の場となる裏庭がさらに充実したものとなるように、土や砂場の砂の補充等を行い、自然環境を通して豊かに学ぶことができるように配慮する。

### (大学付属かえで幼稚園)

子どもたちと保護者および保育者の安心・安全・健康・保育の質が守られるよう、環境の整備と設備の充実等を図る。特に2017年度は、2016年度に続いて保育室内・外壁の塗装・階段の床の修繕等を計画している。

防災に対する意識を持ち、日頃からの訓練を重視すると共に、環境や防災用品の点検をし、必要に備えていく。

### 3. 管理運営計画

当学院の各部門が上記の教学計画、環境整備計画を円滑に実施できるよう、法人事務局および各部事務部門において、以下の課題に重点を置き取り組む。

- ・厳しさを増す学生・生徒募集環境に対応し、学院各部の関係者との緊密な連携のもとで、効果的な募集・広報活動を実施する。
- ・六本木五丁目西地区市街地再開発について、再開発準備組合等との対外折衝の状況に適切に対応するとともに、専門家の知見を活用しつつ、必要な検討作業を遅れなく推進する。
- ・安全性と収益性の両面に配慮した資産運用を行なう。また、六本木再開発への参画や将来の人口動向等今後見込まれる環境変化を視野に入れながら、学院の将来を見据えて財務基盤の充実を引き続き図る。
- ・広報活動や東洋英和楓の会の運営を通じ、全ての学院関係者と学院との連携を引き続き強化する。また、東日本大震災等の被災地支援を継続する。
- ・教職員が一段の能力向上を図り、働き甲斐を感じることができるよう、良好な執務環境の確保にあたる。また社会全般の雇用状況を踏まえつつ、処遇の改善に引き続き取り組む。
- ・法令、規程に基づき適正に事務を遂行し、とくに補助金、科学研究費など公的資金を財源とする研究費について、法令等に基づき適切な管理運用を図るため、監査体制を適切に運営する。
- ・取引先との既往契約を合理性・効率性の観点から見直し、大口契約を中心に競争見積り合せを実施することにより、予算の適正かつ効率的な執行を図る。
- ・当学院が保有する史料を活用した展示をさらに充実させるとともに、保存活動を推進する。

以 上